

<第2議案>

2019年度収支決算(案)

8～9ページの2019年度損益計算書(自2019年1月1日 至2019年12月31日)と貸借対照表(2019年12月31日現在)をもって、2019年度収支決算とする。損益計算書は、「一般会計」と2018年に設立した「次世代基金」に区分して示してある。

I 損益計算書

2019年度決算のポイントは以下の通りである。

1. 全体として

2019年度の単年度収支は約202万円の赤字となり、通常会計の次期繰り越し金は319万円となる。

2018年に創設した次世代基金は、19年の700万円を入れると1500万円の基金となり、19年にスタッフ1名雇用、及び情報管理の臨時雇用へ計172万円を支出した。その結果、約1274万円が次期繰り越し金となる。

2. 会費収入について

会費収入は対予算比約54万円の減収であり、予算執行率は89%である。

3. 事業収入・支出について

『核軍縮・平和2019』の発行が遅れた結果、書籍販売収入は約38万円である。

「講演・執筆」は予算を少し超え、「情報サービス・調査受託」は予算比39万円減である。

4. 寄付金収入、助成金収入について

寄付金収入は、予算比で65万円減、達成率45%となった。近年、一般寄付が大きく減少している。

助成金では、アユス仏教国際協力ネットワークの「NGO組織強化支援事業」として4月から12月までで135万円の支援金を受けることができた。「よこはま夢ファンド」は、1,976,000円の寄付が決定されたが、寄付の集まりが遅れ、申請を遅らさざるを得なくなり、その結果、交付は翌年にずれ込むこととなったため、本表には含まれていない。

5. 費用の部

1. 事業費の支出全体としては予算執行率82%となった。これは、『核軍縮・平和2019』の印刷費が翌年に回ったことによる。

2. 管理費支出全体としては予算執行率100%である。事務所PC更新に88万円、法人税をまとめて約39万円支払った。

II 貸借対照表

以上の損益計算書を反映させた結果、2019年12月31日現在の正味財産は、通常会計で319万円、次世代基金が1274万円、合計約1593万円となる。